【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	日本の中世の一時期に政治・文化の中心であった鎌倉には、市内いたるところにその足跡が残されている。長い年数の経過で、それらは損傷し風化していく危険性が高い。市が市民団体と協働で史跡を保全し後世に残していくことは、市民意識の向上に寄与できる。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 ・広大な史跡の草刈りや市街地から離れている切通の巡回を、市民団体が有する技術と経験、迅速性を生かして定期的実施することにより、史跡の景観維持や訪れる方の安全確保を図る。 ・市民団体が市と協働で実施することにより、近隣住民の方や来訪者との交流の機会もでき、史跡を保全するという市民意識の向上を図る。 【達成できた点】 ・史跡の草刈りにおいては、広大な史跡を埋め尽くす雑草を刈り払うことにより、史跡全体を見渡せるようになり、史跡の景観維持や訪れる方の安全確保に貢献できた。 ・切通巡回においては、来訪者との交流の機会もでき、史跡を保全するという市民意識の向上に細やかながら貢献できた。 ・協働事業に参加した市民団体の会員においては、史跡がより身近に感じることができるようになり、史跡環境の整備に関わる達成感と市民意識の向上につながった。 【達成できなかった点】 ・東勝寺跡は、風致保存会のボランティア活動が2回行われる予定だったので、年2回の活動予定とした。しかし、風致保存会の活動が雨で中止になったこともあり、東側平場の草刈りまで出来なかった。
相互評価 ※上手くいったこと 問題点・課題など	【事業実施前】 ★3 ○市 ・史跡等の維持管理において効率的かつ効果が期待できる内容とスケジュールであることを確認した。 ○団体 ・協働事業の実施場所と日時について、年間スケジュールを立てることにより、全会員が確認することができた。また、事前に活動案内を送付することで、活動内容の確認もできた。 【事業実施中】 ★4 ○市 ・実施する範囲や内容を団体と協議しながら作業を進めるようにし、より効率的に取り組めるよう努めた。 ・準備運動、休憩時間の確保、適度な水分補給等の体調管理、刈払機の使用、危険個所での実施に伴う安全確保を十分に行いながら作業を進めることができた。 ・切通の巡回後に団体が提出する報告に基づき、必要に応じて職員が現地を確認のうえ、倒木の処理等の業務を民間業者に発注するなど、対応を実施した。 ○団体 ・史跡の草刈りにおいては、作業前に参加者全員が検温して平熱であることを確認し、作業中は一定の間隔を取るなど、コロナの感染防止対策を徹底した。6月下旬から9月の時期は、熱中症警戒アラートが発表されることが多く、作業時間を短縮したり、休憩時間を増やして水分補給に努めたりした。また、作業前には必ず準備運動を行い、作業終了後には、安全に作業ができたか、ヒヤリハットがなかったかを確認した。 ・史跡の草刈りにおける刈払機作業では、間隔を開けて作業したり、来訪者があったときには一時作業を中断したりするなど、参加した会員や来訪者の安全管理に努めた。 ・切通の巡回においては、切通路を塞ぐ小枝や小石など、協働事業者である市民団体として可能な限りの処理を行うとともに、処理できなかったことを含めて対応が必要な事項については早急に市に報告した。 【事業終了時】 ★5 ○市 ・作業予定場所の状況により、当初の予定とは変更して実施することもあったが、団体の柔軟な対応により、各史跡での作業を計画的に進めることができた。 ・団体による切通の巡回により、各切通の状況を定期的に把握することができ、良好な環境を維持することができた。倒木の発生等があっても、生活道路ではないため、通報が入ることも少なく、常に市が把握することは難しい。今後も団体による巡回を続け、切通の維持管

	理を協働で実施していきたい。 ・市が実施した史跡レクチャーは、史跡の概要や価値を市民に周知するよい機会だった。今後も続けていきたい。 ○団体 ・史跡の草刈りは範囲が広いので、一度ではやり残す場合がある。流動的に当初計画の見直しを図り、効率的に作業を実施していきたい。 ・切通の巡回報告に基づき、直ちに市が現場を視察し、必要な対応を施してくれた。こうした機敏な対応こそ、協働事業の成果だと考えるので、今後も引き続きお願いしたい。
今後の展望	・本事業は、市民が主体的に史跡とのかかわりを持つことができる貴重な機会を提供するものである。今後も引き続き協働で行い、史跡・切通の良好な環境の維持に努めたい。 ・史跡は貴重な緑地でもある。ただ草を刈るだけでなく、訪れて楽しめる緑の景観を整備することを目指す。 ・夏季は熱中症警戒アラートが発表されることが多いと考えられる。できる限り夏季は活動計画を入れないようにするとともに、「危険」と発表されたときには活動を中止し、予備日に振り替えることとする。 ・市による史跡レクチャーは、令和4年度から毎年8月に実施している。参加者は4年度21人、5年度31人、6年度19人と大変に好評である。今後も、市と団体とが協議してテーマを定め、継続して実施したい。